



海老川の桜

『寝たきりにしない』ための船橋市リハビリセンターの取り組み



センター長 石原 茂樹

<リハ医療の概念>

私たち輝生会グループでは、「リハ医療は、疾病の治療、合併症の予防、慢性疾患の制御をおこないつつ、各種障害の診断・評価をおこない、的確な予後予測に基づき、生活機能およびQOLの向上を目的に、多職種協働で総合的・包括的にチームで実践する医療である」と教育されます。

その具体的な取り組みとして、機能回復アプローチ、代償的アプローチ、予防的アプローチ、機能維持アプローチを行うことが求められています。

<船橋市においては>

輝生会グループは、船橋市立リハビリテーション病院と船橋市リハビリセンターの運営を船橋市から指定管理者として委託され、地域リハビリ活動を行っています。

特に、船橋市立リハビリテーション病院では、急性期病院退院後の患者さんの在宅生活への橋渡し役として、主に、脳血管疾患や整形外科疾患の患者さんなどを対象に、日常生活動作の自立や在宅生活への復帰をめざした機能回復アプローチや代償的アプローチを行っています。

<船橋市リハビリセンターでは>

船橋市リハビリセンターでは、在宅で生活されている患者さんを対象に、「寝たきりにしない」ことをめざして、クリニック事業、訪問看護事業、リハビリ事業（介護予防）、地域リハビリ拠点事業の四事業を行っています。クリニック事業では、外来リハビリ・通所リハビリ・訪問リハビリを行い、外来リハビリは、主に機能回復アプローチで関わり、通所リハビリでは、個別訓練と自主トレを組み合わせ、

予防的アプローチと機能維持アプローチで関わっています。訪問リハビリでは通院困難な患者さんの心身機能の維持・回復や特に廃用症候群予防を行っています。

訪問看護事業では、看護の必要な方に対して、「寝たきりにしない」という強い思いを持って、それぞれの生活状況に応じた

支援を継続して行っています。

リハビリ事業（介護予防）では、「寝たきりにならない」為のリハビリ教室、フォローアップ、プール事業などを行い、地域リハビリ拠点事業では、研究大会、市民公開講座、地区勉強会、介護職勉強会の開催や、地域に出向いてのリハビリテーションについての啓発活動などに積極的に取り組んでいます。

リハ医療の概念

疾病の治療、合併症の予防、慢性疾患の制御をおこないつつ、各種障害の診断・評価をおこない、的確な予後予測に基づき、生活機能およびQOLの向上を目的に、下記のアプローチ等により、多職種協働で総合的・包括的にチームで実践する医療。

機能回復アプローチ	運動障害・言語障害・摂食および嚥下障害・排泄障害・認知機能障害の回復
代償的アプローチ	残存機能の活用、義肢・装具・車いす等活用、家屋改修等の環境調整
予防的アプローチ	急性期～回復期～維持期に至るすべての時期における廃用症候群の予防
機能維持アプローチ	慢性期における生活機能の再建・向上・維持

ソーシャルワーカーからの
ワンポイント講座

費用について

クリニック事業では外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリを行っています。これまでは実際のリハビリ内容や取り組み報告、また療法士からのワンポイント講座などを報告してまいりました。今号では実際にリハビリセンターでリハビリを行う場合の料金の目安をお知らせしたいと思います。外来リハビリ（医療保険）の費用は、疾患により異なり、利用時毎の支払いとなります。介護保険で行う通所リハビリ、訪問リハビリは利用月の翌月に1月分まとめて支払いとなります。（どのようなリハビリが可能かソーシャルワーカーがご相談に応じますのでまずはご連絡下さい。）

外来リハビリの費用：初回は初診料と疾患別リハビリ料がかかり、2回目以降は診察の有無により料金が異なります。また、3ヶ月に1度リハビリテーション実施計画書（3000円）が発行されます。介護認定を受けている方は3ヶ月に1度、目標設定等支援管理シート（初回2500円、2回目以降1000円）が発行されます。 1回あたりの費用（単位 円）

費用内訳	脳血管リハ	運動器リハ	廃用症候群	呼吸器リハ
初診料	2,820	2,820	2,820	2,820
疾患別リハビリ料 2単位 40分	4,900	3,700	3,600	3,500
実施計画書（3ヶ月に1回発行）	3,000	3,000	3,000	3,000
初回時合計	10,720	9,520	9,420	9,320
2回目以降	診察がない場合	4,900	3,700	3,600
	診察がある場合	5,990	4,790	4,690
	診察、実施計画書発行ありの場合	8,990	7,790	7,690
1割負担の場合		(2割負担、3割負担の場合は ×2、×3です)		
初回時合計	1,070	950	940	930
2回目以降	診察がない場合	490	370	360
	診察がある場合	600	480	470
	診察、実施計画書発行ありの場合	900	780	770

通所リハビリの費用：要支援の方は、包括払いとなり、1ヶ月当たりの金額となります。要介護の方は、1日あたりの金額に利用回数に乗じた計算方法になります。

週1回（月4回）利用した場合の1月あたりの費用（単位 円）

費用内訳	要支援1	要支援2	費用内訳	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
基本利用料	18,250	38,536	基本利用料	a 3,507	3,816	4,136	4,445	4,776		
サービス提供体制加算Iイ	768	1,535	サービス提供体制加算Iイ	b 192	192	192	192	192		
運動器機能向上加算	2,399	2,399	社会参加支援加算	c 128	128	128	128	128		
通所リハマネジメント加算I	3,518	3,518	1日利用料(a+b+c)×4	15,308	16,544	17,824	19,060	20,384		
1ヶ月概算	24,935	45,988	通所リハマネジメント加算I	3,518	3,518	3,518	3,518	3,518		
負担割合	1割	2,494	4,599	1ヶ月概算	18,826	20,062	21,342	22,578	23,902	
	2割	4,987	9,197	負担割合	1割	1,883	2,008	2,134	2,258	2,390
	3割	7,481	13,796		2割	3,765	4,013	4,268	4,516	4,780
				3割	5,648	6,019	6,403	6,774	7,170	

訪問リハビリの費用：要支援・要介護共に1日あたりの金額に利用回数に乗じた計算方法になります。

週1回（月4回）利用した場合の1月あたりの費用（単位 円）

費用内訳	要支援(1~2)	要介護(1~5)	
訪問リハビリテーション費 a	6,183	6,183	
サービス提供体制加算 b	128	128	
社会参加支援加算 c		181	
1日利用料 (a+b+c)×4	25,244	25,968	
リハビリテーションマネジメント加算I（1月ごと）	2,452	2,452	
1ヶ月概算	27,696	28,420	
負担割合	1割	2,770	2,842
	2割	5,539	5,684
	3割	8,309	8,526

通所リハビリ、訪問リハビリの診察料			
診察料	通所リハビリ（月1回）	訪問リハビリ（3ヶ月1回）	
	1,250	8,330	
負担割合	1割	130	830
	2割	260	1,670
	3割	380	2,500

医療保険、訪問看護からの訪問リハビリの場合の費用は別になります。

外来・通所・訪問リハビリを希望される方は、船橋市リハビリセンター（047-468-2001）までご相談ください。



尿漏れを呈している人は数多くいるとされていますが、日本人の性格や文化、羞恥心などから誰にも相談出来ず、病院などの医療機関で確認・報告されている以上に問題を抱えているケースは多いと考えられています。尿漏れの原因と対策としての骨盤底筋を鍛える方法を考えてみたいと思います。

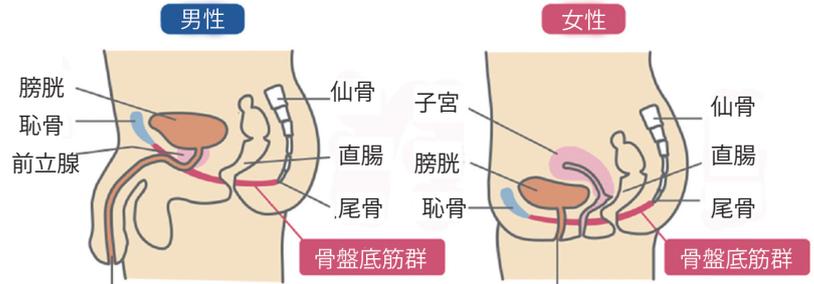
尿漏れはなぜ起こる



男性であれば、排尿後にズボンをはき直しているときに尿がチョロっと漏れる、内股を伝うといった症状や、女性であれば咳やくしゃみ、運動などお腹に力が入ったときに漏れてしまうなどの症状

として尿漏れを実感することがあります。男性の中には前立腺肥大などで尿道が狭くなって起こるケースもありますが、男女含めてこれらの症状は尿道括約筋や骨盤底筋という筋力低下が原因となっていることがあります。

骨盤底筋群とは？



尿道（屈折して長い）

尿道（尿道口へ垂直で短い）

（図：パナソニックいきいきライフデザインマガジン第9回より）

骨盤底筋とは読んで字のごとく骨盤の底（恥骨、坐骨、尾骨の間）にありハンモック状に尿道や膀胱、直腸、子宮などの内臓が下がらないように支えている筋肉群のことをいいます。加齢や肥満、便秘、妊娠・出産、ホルモンのバランスなどにより骨盤底筋が緩み、収縮する力が弱まることで尿道が十分に締まらなくなってしまいます。骨盤底筋の中には、意識的に動かせる筋肉も含まれており鍛えることで尿失禁に対する効果が得られます。

骨盤底筋群体操のご紹介

肛門を5秒間締めて、緩めてを繰り返す



（参考：今日からできるコンチネンスケア：精神科看護 VOL.39 No2 より）

体操のめやす

- ・ 3～5秒間締める（5回）を1セットとして1日10回程度行います。
- ・ おしっこを我慢する時の感じで動かしてみましよう。
- ・ 肩やお腹など他の場所に力が入らないように呼吸を止めずに行いましょう。
- ・ 効果が出るには個人差がありますが、少なくとも1～3ヶ月はかかります。

★大事なのは毎日続けていく事です。諦めずに頑張りましょう！★

また、締め付けない衣服や安心の為にパットを使用するなどの工夫も合わせて行うと良いでしょう。



その他の尿漏れの原因・・・子宮脱・膀胱脱などの疾患、前立腺肥大、糖尿病や心臓・腎臓の疾患、水分の摂りすぎで尿量が多い、利尿剤や一部の降圧薬の影響で尿量が多い、過活動膀胱や膀胱炎で尿がためられない、脳血管疾患などの影響などがあります。持病をお持ちの方はご自分ご病気や内服が尿漏れに影響があるのか、主治医へご確認ください。受診の際は排尿日誌をつけて相談すると状態が伝わりやすくスムーズです。

訪問看護を必要とされる場合、訪問看護ステーション：所長 横山恭子 またはソーシャルワーカーまでお気軽にお電話（047-773-0319）ください。

リハビリ事業 (介護予防)

介護予防を図る目的で

市内に住む 65 歳以上の身体機能の低下がみられる方を対象に、実施している事業が「リハビリ事業」です。



「リハビリ事業」では、パワーリハビリ教室、パワーリハビリフォローアップ、プールリハビリをしています。

リハビリ事業 プールリハビリの紹介

水中歩行専用の円形リハビリプールです。

■水深 90 cm ■水温 31～32℃ ■周囲 外側 21.4 m 内側 17 m ■歩行専用（遊泳不可）

水中と階段に手すりがあります。集団で水中歩行を行う事で円形プールに適度な水の流れが発生し、歩行をアシストしてくれます。一般的なウォーキングでも運動効果は高いですが、長時間ウォーキングをすると膝や股関節等の関節を痛める要因になる場合もあります。陸上でのウォーキングに比べると、水中ウォーキングは関節への負担が少なくなります。



更衣室



ご利用について

- 船橋市内在住で、おおむね 65 歳以上の身体機能の低下した方が対象です（介護認定を受けた方は 40～64 歳の方も対象です）
- 料金は 1 回 250 円です。週に 2 回までご利用いただけます（定員 20 名・要事前予約）
- 利用日時は 月・火・木・金 10：00～11：30 水・金 13：30～15：00（土・日・祝日は休館です）
- 利用において介護者を必要とする場合には、介護者と一緒に入ることを条件に利用できます。尚、更衣動作に介護者を必要とする場合は、同性の介護者が必要です。
- 東船橋駅（JR）、薬園台駅（新京成電鉄）、飯山満駅（東葉高速鉄道）から、船橋市リハビリセンターまでの送迎バスも運行しています。

利用者さんの声

プールリハビリを始める前は脳腫瘍の後遺症で、身体のバランスがとれづらく転倒事故が多かったです。歩行は 15 分位で足が痛み、手足に余分な力がかかり歩行が困難でした。プールリハビリを継続する事により、最近は歩行が杖を使用して 1 時間位続けて歩ける様になりました。スタッフの方に様々なアドバイスいただき現在があるのだと思っております。これからも続けたいと願っています。（岡村 猛 様）

プールリハビリに通い始めて 4 年程。通い続ける程にこんな素晴らしい施設に感謝の一言です。今日も家を出るとき 80 歳を超えた膝が痛かったのですがプールで歩いた後、痛みが軽減してました。プールのお仲間との和気あいあいの雰囲気も身体に効いているのでしょうか。今ではプールはなくてはならないリハビリとレクリエーションの日となりました。施設の皆様の心からの寄り添いとご指導に感謝申し上げます。（門馬 峯子 様）

50 年間、早朝より立ち仕事をしていた私の体はボロボロとなり、13 年前に両股関節と左膝の手術を余儀なくされました。重い足を引きずってやっと歩いていましたが、プールに 10 年間 週 2 回通ったお陰で足はすっかり良くなり友人もでき、心から喜んでます。（魚田 ますみ 様）

プールリハビリにお世話になっているお陰で、転ぶこともなく年を重ねてこられました。遊泳者のいない歩行専用プールですので歩きやすく陸上では長く歩けない私も、水中ならば 50 分位は楽に歩けます。長年プールに通い続けるうち気の合う仲間もでき、楽しい語らいや情報交換をする事で、一緒に頑張る気持ちになります。これからもプールだけは続けていきたいです。（玉井 良江 様）

プールリハビリに通い始めて、若いスタッフから元気を頂いております。又、沢山の友人もできました。出掛ける日は浮かれ気分で「今日はプールだね」と夫に送り出されて送迎バスでセンターまで通います。水中ならではの歩き方や片足立ちなど、陸上では出来ない動きが出来るので、筋力がついたと感じています。（熊井 喜代子 様）

私の腰痛歴は現在に至るまで 40 年以上となります。整形外科に通院する傍ら鍼灸にも通いましたが、どれも効果がありませんでした。これまで全く歩けなくなる事もあり、過去 2 回長期入院をしています。そして退院後も腰の痛みは完治しませんでした。転機となったのが 5 年前に指圧師からプールを勧められた事でした。2 年間プールリハビリを続けた結果、短い距離なら腰に痛みを感じる事なく歩けるようになりました。（岩下 義弘 様）

<利用の手続き> 船橋市リハビリセンター 電話番号 047-468-2001 へお問い合わせください。

地域リハビリ 拠点事業

「地域リハビリテーション拠点事業」では、関係機関と協力し様々な活動を行っています。

～活動報告～

第19回 船橋市地域リハビリテーション研究大会

2019年2月9日(土)

船橋市民文化創造館「きららホール」

開会の挨拶



船橋市健康福祉局
伊藤 誠二 局長



「平成30年度地域リハビリ事業報告」
船橋市リハビリセンター鳥居 和雄 氏



「船橋市における介護サービスの推移」
船橋市介護保険課 渡邊 佳浩 氏



「船橋市における回復期リハ病棟実態調査」
船橋市リハビリセンター 江尻 和貴 氏

研究発表・実践報告 『 自立支援に向けて 私たちができること! 』



座長：
わかる介護相談センター船橋 松本 重訓 氏
船橋市リハビリセンター 尾下 真志志 氏



「老健フェルマータ船橋としての役割」
介護老人保健施設 フェルマータ船橋
福富 仁 氏



「リハビリから就労へ～障害のある人の
ライフプランの拡大を目指して～」
障害者通所施設オーヴェル 宮前 篤史 氏



「船橋摂食嚥下臨床研究会 と
いいじま歯科の取り組み」
いいじま歯科 飯島 美智子 氏



「89回目のクリスマス」
特別養護老人ホーム みやぎ台南生苑
尾川 裕一氏、小峰 初恵氏



『「船橋在宅医療支援拠点ふなぼーとの取り組み」
船橋市在宅医療支援拠点ふなぼーと
松本 淳 氏

特別 講演



座長：
ひまわりネットワーク
地域リハ推進委員会
石川 誠 リーダー

『地域包括ケア時代の地域に求めること』

講演は、わかり易くお話しいただきました。
まずは、今後の人口動態から、団塊の世代が後期高齢者となることよりも、労働人口の減少による労働力不足が最大の課題であるとのこと。
ついで、平均的なライフサイクルについても、子供の数は減る一方、平均寿命が延びたことにより、引退後の期間が長くなり、その間をどのように生活していくのか、また最後をどこで迎えるかもタブー視せず考えていく必要があるとのこと。
人生の最終段階における医療については、Advanced Care Planningg を確認することを推奨。「人生会議」という愛称が紹介され、11月30日が「人生の最終段階における医療・ケアについて考える日」とされたことが紹介されました。多くの方が、最後は住みなれた自宅で看取ってほしいと考えていますが、狭かったり、階段があったり、独居になったりと「在宅神話」ではないかとも問題提起

されていました。「買い物弱者」という言葉も新鮮で、郊外型のスーパーが多くなり、身近なお店が少なくなり、安価な加工食品による栄養事情の悪化が心配です。「買い物弱者」を支える体制づくりも必要とのこと。
また、地域包括ケアシステムの構築におけるリハビリテーションについては、自立支援や重度化防止の重要性が増すことからリハビリテーション専門職が活躍する場面が増えるので、期待していますと話されていました。
今後の課題については、質の高い在宅医療の確保にあると考えているとのこと、会場のリハビリ職種・リハビリ施設の方に向けて、地域の核となり動いてもらうようエールをいただきました。



厚生労働省 医務技監
鈴木 康裕 氏

地域リハビリ拠点事業のホームページは船橋市リハビリセンター HP 内にあります。地域リハビリ拠点事業
この URL で直接アクセスできます。ホームページQR
活動状況の閲覧、勉強会の申込書などが格納されていますので、ブックマーク登録してご利用ください。



前原地域ケア会議主催 講演会

2019年1月19日(土) 船橋市東部公民館



船橋市東部公民館

健康で長生きするために ～体を動かして健康づくり地域活動に参加しよう～



佐々木 智也 OT



参加者は前原地区内外在住の主に高齢の方(中に30代の方もあり)約60名。前原地区は「子どもの世話になりたくない」という思いのお年寄りが多いが、今後の生活に不安を持つ方も多いとのことで、健康寿命の延伸を目的とした講演会を実施しました。「とにかく動く(運動・日常生活)」、「地域の人と交流する」をテーマの柱とし、身体機能・認知機能の低下予防のために自宅でできることを実技を交えてお伝えしました。

出前講座〔高根台住宅自治会シニア交流会〕

2019年2月15日(金)



鳥居 和雄 PT

寝たきりにならないためのリハビリとは?
～住み慣れた場所で生き生きと～

定期的にシルバーリハビリ体操を行なっているという高根台住宅自治会シニア交流会に伺いました。小雨の降る天気でしたが、私たちが到着した時には、皆さんで「脳トレ」に取り組んでいらっしゃるどころでした。



船橋市が行った「健康とくらしの調査2016」(JAGES)より、「スポーツの会参加者の割合が高い」、「孤食者の割合が低い」、「物忘れが多い者の割合が低い」や、「1年間転倒有のもの割合が高い」、「低栄養者の割合が高い」、「近所とのつながりがある者の割合が低い」といった大穴地区の特徴を紹介しつつ、「寝たきりにならないためのリハビリとは?」の講義を行い、自宅でできる運動を皆さんと一緒に行ないました。



第13回摂食栄養サポート勉強会

2019年2月14日(木) 船橋市立リハビリテーション病院



開会挨拶: 船橋歯科医師会
会長 尾崎 隆氏



総合司会:
言語聴覚士
井上 典子氏



摂食栄養アセスメント
シート説明
言語聴覚士
石川 あゆみ氏

講義「何かおかしいな?を解決するためには」

船橋歯科医師会/船橋市かざぐるま
休日急患・特殊歯科診療所 田代 晴基氏



第13回を迎えた今回の勉強会は『噛めてる?飲み込めてる?』をテーマに、普段の摂食嚥下場面で、「何かおかしいな?」と感じたり、思ったりすることを少しでも理解・解決に繋がれるようにと内容を企画し開催しました。

講義では田代氏より正常の摂食や飲み込みを健常者の動画をもとに分かりやすく説明していただきながら、見た目では問題なく食べられているように見えても顕性誤嚥と

がわかり全量食べられず痩せてきてしまっている高齢者の2事例を、全グループ・多職種で各々の視点から、課題を抽出し対策について話しあって頂きました。

全班からの発表では、グループの職種や参加者の経験をもとに、注目するポイントが多岐に渡っていて、発表を聞く中でも学び深い勉強会となりました。

いう検査をしなければ分からない誤嚥症状をきたしている事例も動画を用いて分かりやすく紹介していただきました。

グループワークでは、脳卒中後遺症のために、かきこみがちで時々ムせている窒息のリスクが疑われる若年の事例や、口の中で溜め込みやすく食事に時間



閉会挨拶:
船橋市栄養士会会長
福島 節子氏

委員会より

サービス向上委員会

私たちの取り組み 「接遇と私」

輝生会では「よりよい接遇をめざして」を合い言葉にして、日々の業務に取り組んでいます。当センターでは、毎朝ミーティングをしておりますが、特に月に1回スタッフの接遇への取り組みを話してもらうことにしています。その内容は「足跡」ファイルにまとめています。



今回は「足跡」に掲載された理学療法士の村松智美さんが話された内容「話し方で気を付けていること」を紹介します。



接遇で一番気を付けていることは話し方についてです。

私自身は、緊張すると早口になってしまうことが多く、相手の方は聞き取りづらくなってしまふことがあるのではと思っています。そのため、できるだけ落ち着いてゆっくりと話すように意識しています。

また耳の遠い方や補聴器をつけている方もなるべく顔を合わせて会話ができるように、聞き取りやすい声の高さや大きさを確認して、なるべく耳元で話さないように気を付けています。



ぼけ



新入スタッフ、異動スタッフに質問
【質問】①船橋市リハビリセンターの魅力
②専門職として心がけていること
③今後の抱負

新しく仲間になったスタッフです。



- ① 外来・通所・訪問看護・訪問リハビリ・介護予防事業と様々なサービスを提供できる場所、そして地域リハビリ拠点事業に積極的に取り組んでいるところ。
- ② 利用者さんやご家族さまお一人お一人の気持ちに寄り添いつつ、言語聴覚士としてできることを丁寧に発信していきたいと思っています。
- ③ センターも6年目を迎え、組織としてより熟成していく時期です。チーム全体で質の高いリハビリを提供しつつ、サービスを受ける利用者皆様の生活を支えられますよう、尽力したいと思います。

(清水 美緒子 ST サブマネジャー)



(若菜 みどり NS)

と技術を学び、利用者さんに必要とされる看護師になりたいと思っています。

- ① スタッフがみな笑顔で明るく、フレンドリーで、アットホームな雰囲気のなかで働ける場所です。
- ② 利用者さんと信頼関係を築きながら必要なケアをおこなってゆくことです。
- ③ 今までの看護師経験をもとに、新たな訪問看護師としての知識



(林 美穂 PT)

③ リハビリ病院での経験を生かし、利用者さんに寄り添っていけるようにがんばって行きたいです。

- ① 外来リハビリ、通所リハビリ、訪問リハビリを利用者さんに提供出来る場所。スタッフも明るく、笑顔があふれているところ。
- ② リハビリの中で、利用者さんが何を必要としているのかを理解し、その思いに寄り添いながら、専門的なアドバイスを行ってきたいと思っています。

地域の施設紹介

船橋市立医療センター 脳神経外科を訪ねて

〒273-8588 千葉県船橋市金杉1丁目21番1号
TEL : 047-438-3321



脳神経外科 QR

部長紹介



(内藤 博道 先生)

× ツ セ ー ジ

脳卒中とは、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の総称です。発症直後からの治療が大変重要になります。脳梗塞と脳出血では、①片方の顔面の麻痺、②片方の手足の麻痺（力が入りにくい）、③ろれつが回らない、言葉が出ない、といった症状が急に出来ます。また、くも膜下出血では、④突然の激しい頭痛（人生最悪の頭痛）が特徴で、しばしば意識障害を伴います。一つでも当てはまれば、すぐに救急車を呼んでください。

船橋市立医療センター脳神経外科は部長の内藤博道先生をはじめ、7名の脳外科医の方が勤務されています。三次救急という、近隣の医療機関では対応困難な最重症の方を受け入れる医療機関として、船橋市にとどまらず、東葛南部圏域の救急医療を担っています。2014年度からは、脳卒中患者さんの急性期治療を行なう脳卒中ケアユニット(SCU)を持ち、治療を充実させています。

2018年1月1日から12月31日までの1年間の手術件数では、脳動脈瘤クリッピング術24件（未破裂6、破裂18）、脳動脈瘤コイル塞栓術49件（未破裂22、破裂27）、開頭血腫除去術（外傷性）8件、慢性硬膜下血腫の穿頭術93件、脳腫瘍摘出術11件、開頭脳内血腫除去術8件等、合計345件となっています。



脳卒中センターの医師の皆さん

退院後は患者さんのお近くのかかりつけ医の先生方と連携をはかり、定期的な受診もしくは、心配な点があったらすぐに受診できる体制をとっているそうです。医療センターを退院された後に当リハビリセンターを利用される方も多く、適切な医療情報を元にご紹介いただいています。当リハビリセンターを利用中の方で体調が悪くなられた方も、迅速にお受けいただいております、いつも頼りにさせていただいています。

利用者さんの声から

多くのプロに支えられて

島田 潤一 さん

6年前に仕事中に転落事故で頸椎損傷してしまいました。手、足が麻痺し最初は寝たきり状態で寝返りや起き上がることも出来ず、自分で出来ることが何もなくなくなり絶望感で打ちひしがれていました。事故後1週間位で足の指が動き出しリハビリを開始。その時にお世話になった担当の看護師さんが男性の方で何をするにもお願いして、「心を癒すのは人とのつながり」という言葉が思い出されるほどスタッフの方々に面倒を見てもらい精神的に立ち直っていきました。

その後、回復期の病院に5か月間入院しましたが、当初は手を使ってなかったので、両肩を支える筋肉がなくなり脱臼状態でした。腕は、動かない、重たい、横になっても痛い、触って動かそうとすると痛い、そんな日々の状況が手なんか必要ないと思う気持ちの中で、一方リハビリをして元の腕に戻したい、本当に戻るのか不安を感じながら今できるリハビリに取り組みました。

退院2年後にリハビリの終了を伝えられましたが、自分ではまだ回復の余地を感じていたので、船橋市リハビリセンターに通院するようになりました。そこは、以前の病院とは違い会話が増え、疑問に思っていること、悩み等もよく聞いていただきその都度気持ちをリセットしてもらい、運動をし過ぎて筋肉が固まった時などもストレッチをしていただく事が多々あったかと思えます。現在では殆ど、使えなかった右手で普通箸で食事をとる事や、ボタンの付け外しなど細かい作業ができるようになり、歩行も毎日1時間のウォーキングも楽にこなせる様になりました。

今後は、微力だとは思いますが、何らかの形で障害者の方を支えることが出来る職業に就きたいと思っています。



船橋市リハビリセンター 案内図



【編集後記】表紙は市場方面を望む海老川の桜です。巻頭言は「寝たきりにしない」センターの取り組み、クリニック事業ではリハビリに要する費用についてまとめてみました。訪問看護では尿漏れの解説とその予防体操、リハビリ事業ではプール利用者さんの声、地域リハビリ拠点事業では第19回研究大会、出前講座や摂食栄養勉強会報告を掲載しました。地域の施設紹介は脳血管障害を中心とした急性期医療を担っている船橋市立医療センター脳神経外科チームを紹介。利用者さんの声では多くの人の支えにより四肢麻痺から回復した声が寄せられています。今年度も「だより」を通して、話題を提供してゆく予定です。(石原茂樹)

船橋市リハビリセンター 〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-519-3 TEL (047) 468-2001 FAX (047) 468-2059

地域の施設紹介 & 利用者さんの声から